

野研びより

昆虫編 8号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2017年5月



ナナホシテントウ

Coccinella septempunctata

甲虫目 テントウムシ科

体長：5～8.6 mm

分布：日本全土

時期：3～11月

図1. ナナホシテントウとアブラムシ

テントウムシと言えば一番に思い浮かぶのがこのナナホシテントウだろう。ナナホシテントウは黄赤地に7つの黒紋を持ち、主に草原や畑などでよく見られる¹⁾。落ち葉の裏や、株の根元などで数匹が集まって、成虫のまま越冬し、春早くから活動が始めるが、暖地では卵や幼虫で冬を越す場合もある。

かわいらしい見た目とは裏腹に肉食性の昆虫であり、成虫、幼虫ともに植物の汁を吸うアブラムシ類を食べる。害虫であるアブラムシを食べるため、益虫とされている。幼虫はえさのアブラムシが足りなくなると、よく共食いをする²⁾。

テントウムシを捕まえると、嫌なにおいのする黄色い液体を出されたことがないだろうか。テントウムシは自分の身を守るために、強い刺激を受けると足の関節から臭いのある黄色い液体を出し、外敵に襲われそうになると成虫も幼虫も死んだふりをする。また、その目立つ色合いは、捕食者に対する「食べてもまずい」という信号となっており、テントウムシが出す黄色い液体はアルカロイドを含み苦みがある。

参考文献

- 1) 昆虫エクスペローラー ナナホシテントウ <http://www.insects.jp/kon-tentounanahosi.htm>
- 2) 身近な昆虫図鑑 ナナホシテントウ <http://sorairo-net.com/insect/tentoumushi/001.html>
- 3) 自然のチカラ～昆虫や野生動物、植物の不思議
<http://animalbattles.wealthyblogs.com/?p=1949>